

基本理念

- **社会全体のデジタル化を推進し、SDGs達成に貢献する。**
- また、SDGs達成に向けた取組を通じて、**我が国が掲げるSociety 5.0の理念を世界に広げ、持続可能かつ包摂的な社会をグローバルに実現する。**
- これにより、余暇の充実、労働環境の改善、社会不安の解消等を図り、多様なライフスタイルの実現や新たな価値を創造できる豊かな社会を実現する。

人間中心

持続可能性

多様性

6つの戦略

1. デジタル化によるSDGs達成戦略

地球上の誰一人として取り残さない社会の実現に向け、

官民の各セクターが相互に連携して社会全体の徹底的なデジタル化を進め、日本と世界の社会課題の解決を推進

- ICTによる社会課題解決モデルの国内外での展開(SDGs×ICTモデル)。
- 重点分野について、パイロット・プロジェクトの実施、国際機関との連携。
- 「質の高いICTインフラ」の国際スタンダード化を推進。
- ICTアクセスの確保やICTリテラシーの涵養、デジタル人材の育成・確保等によるデジタル格差の解消を推進。
- テレワークの推進等による女性のデジタル経済への参画を促進。
- 中小企業を含む、あらゆる産業におけるデジタル化の推進。
- アジャイル型研究開発(自治体や利用者のニーズを吸い上げるフィールドトライアルによるICTの高度化・汎用化)。
- 研究開発成果のビジネス化の加速化。
- ベンチャー企業の先導的技術の利用促進。

2. データ・ガバナンス戦略

データの自由な流通の重要性を海外に向けて発信するとともに、個人によるデータコントロールの確保に向けた取組を推進

- データの自由な流通を一層推進するための信頼性(トラスト)の向上(個人情報保護、サイバーセキュリティの強化、知的財産の保護等)。
- 信頼性に関する国際的な評価指標作り。
- データの特性に応じた分類やその取扱い等の検討。
- データの改ざんや送信元のなりすまし等を防止する仕組み(トラストサービス)の制度化の推進。
- 「情報銀行」の社会実装や国際的なルール形成、データ取引市場における環境整備、デジタルプラットフォームを巡る取引環境の整備。

3. AI/IoT利活用戦略

AIを人々のより良い生活につなげていくという「AI時代の未来像」を国内外に発信

- AIによって産業構造・労働環境を効率化することで、人々のライフスタイルが豊かになり、新しい雇用や産業を創出することができるという考え方を発信。
- 人間中心のAI原則の普及やインクルーシブなAI経済社会の実現に向けたデータの役割の検討を推進。
- リアルデータ・知識を活用したAI/IoTを推進。
- 人材の確保・育成を推進(女性人材の育成も重要)。

4. サイバーセキュリティ戦略

IoT機器・サービスの急速な普及等による社会変化に対応したセキュリティに関する共通認識を各国と醸成

- 産学官・市民社会が参加・連携・協働し、サイバーセキュリティの向上を推進。
- 実践的な対処能力を有する人材の確保・育成や人材育成のエコシステムの構築を推進。
- 世界の優れた技術を取り込むとともに、自国技術の育成を推進。

5. ICT海外展開戦略

日本が培った信頼性の活用、ルール形成への関与やキャパシティビルディングへの支援等による海外展開を推進

- 官・民・支援組織が役割分担し、地域ごとの海外展開事例、課題、ノウハウ等を共有するなど一体的に海外展開を推進。
- 海外での展開を前提とした開発や事業化を推進。
- 「モノ」だけではなく、成長分野である「サービス」や「プラットフォーム」の海外展開を推進。
- 我が国が培った「信頼性」を強みとして活用し、海外展開を推進。

6. オープンイノベーション戦略

2030年代の具体的な将来像の実現に向けたキーテクノロジーの高度化を推進

- キーテクノロジーについて以下の方向性の下で重点的に研究開発を推進。
- ※ 2025年の大阪・関西万博では、キーテクノロジーやそれを用いた新たなサービスをショーケースとして示すことで、国内外に我が国技術の先進性を広くアピール。

- ① 人間を中心とした次世代コミュニケーション技術等により、身体、言語の能力や時間・空間の壁を超え、生活の質を向上(次世代AI・ロボット、脳情報通信、超臨場感伝達等)
- ② 盗聴されない安全性の高い通信技術等により、安全安心なデータ主導社会を実現(センシング・IoT、サイバーセキュリティ、量子ICT等)
- ③ 現在の数百倍の通信速度を実現する超高速通信技術等により、未来を支える高度なネットワークインフラを構築(革新的ネットワーク、次世代ワイヤレス、宇宙ICT等)

- オープンイノベーションを促進する環境整備(最先端テストベッド、電波エミュレータ)。諸外国との戦略的パートナーシップの構築。ビジネス視点の国際標準化の実現。トップ級の研究開発人材確保に向けた環境整備・人材育成。

G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合及びその後に向けた方向性

基本的な方向性

- デジタル化によってSDGsを達成するということをG20における共通目標として提示
- このためには、我が国発のSociety 5.0の理念を世界に広めていくことが必要
- これらによって、社会課題の解決に加え、産業構造・労働環境を効率化することで、人々のライフスタイルが豊かになり、新しい雇用や産業を創出することができるという考え方を世界に発信し、共通認識を醸成

I. デジタル化によるSDGs達成への貢献

- | | | |
|---|---|---|
| ① SDGsを達成し、社会・経済の包摂的かつ持続的な成長を実現するためには、 <u>デジタル・テクノロジーの活用が不可欠</u> であることを確認 | ② SDGsを達成し、社会・経済の包摂的かつ持続的な成長を実現するためには、 <u>インフラ整備の促進、デジタル格差・ジェンダー格差の解消等が必要</u> であることを確認
<u>特に2025年までに世界中の人をインターネットに接続するというG20の共通目標の推進を再確認</u> | ③ 地球上の誰一人として取り残さず（leave no one behind）、 <u>あらゆる人々がデジタル化の恩恵を共有できるよう、G20（有志国による）が国際機関と協力した行動を起こすことを提起</u> |
|---|---|---|

II. データの自由な流通と利活用の促進

- ① データの自由な流通を促進し、デジタル化による恩恵を最大化するため、データが広く利活用されるためのオープンな環境を整備すべきであることを発信し、共通認識を醸成
- ② データの自由な流通を一層促進するため、信頼性（トラスト）の向上（個人情報保護、サイバーセキュリティの強化、知的財産の保護等）が必要であることを確認
- ③ 個人によるデータのコントロールビリティの確保に向け、データの特성에応じた分類やそれを踏まえた適切な取扱い等の検討を行うことを提起

III. AI/IoTの利活用の促進と環境整備

- ① AIによって産業構造・労働環境を効率化することで、人々のライフスタイルが豊かになり、新しい雇用や産業を創出することができるという考え方を世界に発信し、共通認識を醸成
- ② AIの社会における受容性を向上させるため、AIの自由な活動を守りつつ、倫理面を含む安心・安全なAIの利用環境を提供する人間中心のAI原則を共有
- ③ インクルーシブなAI経済社会の実現に向けたデータの役割の検討を開始することを提起
- ④ G20各国のAI政策、戦略等の事例の共有を提起

IV. サイバーセキュリティの確保

- ① IoT機器・サービスの急速な普及等によるサイバーセキュリティのリスク環境が急激に変化しており、社会・経済の秩序や企業や消費者を含む全てのユーザの信頼を維持するためには、サイバーセキュリティの確保が重要であることを確認
- ② サイバーセキュリティの確保の在り方について、民間企業・団体、市民社会も含めた幅広い関係者による議論と共通理解が重要であることを確認
- ③ サイバーセキュリティの意識向上や人材の確保・育成が重要であることを確認

今後の我が国の戦略

- | | | | |
|---|--|--|--|
| i. SDGs達成に向けた取組を推進し、包摂的なデジタル経済の構築に貢献 | ii. データ・ガバナンスに関する議論を主導し、データの自由な流通を促進 | iii. AIの倫理や利活用に関する議論を主導し、格差のないAI時代の社会の実現を推進 | iv. サイバーセキュリティに関する議論を主導し、安心・安全なデジタル社会の構築を推進 |
| a. G20有志国が産学官と一体となって、国際機関等とも連携した <u>マルチステークホルダーによる取組を推進し、デジタル・テクノロジーを活用した途上国への開発支援を促進</u> | a. OECD等の国際機関と連携し、 <u>データの特性に</u> 応じた分類やそれらを踏まえた適切な取扱い等を検討 | a. <u>AIによるライフスタイルの改善、雇用・新産業の創出</u> を主導 | a. サイバーセキュリティを向上させ、安心・安全なデジタル社会を構築するため、 <u>産学官・市民社会との連携</u> を推進 |
| b. ビジネスチャンスの創出を促進するため、 <u>KPIの活用やベストプラクティスの共有</u> を促進 | b. 慎重な取扱いを要するデータについて、 <u>政策的枠組みの相互運用性の向上</u> を推進 | b. 格差のないAI時代の社会を実現するため、 <u>人間中心のAI原則の普及</u> を推進 | b. サイバーセキュリティ人材の育成に関する国際協力を通じ、 <u>仲間作りを推進</u> するとともに、 <u>ビジネスチャンスの創出</u> を促進 |
| c. SDGs達成に向け、 <u>他国とオープンな姿勢で連携</u> を推進 | c. <u>信頼性に関する評価指標</u> 作り等を検討 | c. AIの社会での実用化・利活用を促進するため、 <u>他国との政策連携</u> を推進 | |
| | | d. インクルーシブなAI経済社会の実現に向けた <u>データの役割</u> を検討 | |

国際的な合意形成を踏まえたSociety 5.0のグローバルな展開、AI時代に向けた未来像の検討や社会課題解決の方策の具体化等を通じて、「ICTグローバル戦略」を推進